

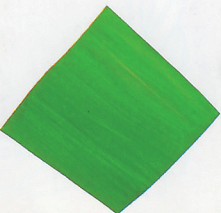

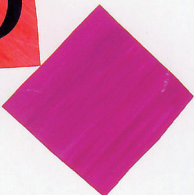
被虐待児からのメッセージ

凍りついた
見つめる
もの



め
壁が

椎名篤子：編



集英社文庫

母と同じに感情を抑え切れない時があるのです。夫には性的であったことは言っていないませんが、虐待を多少受けたとは話しています。けれども、夫は子どもを望んでいるのです。先のことを考えるととても不安です。

この様な不安を話し合えたり、子どもの頃の事を聞いてもらおう事で、この様な事が少しでも減るとすれば、私も少しでも力を出せたらと思います。私の不安も軽くなるかもしれません。

CASE 3 義父の本性

私は現在32歳の主婦です。7歳、4歳の2人の男の子の母親です。

私が小学校の6年の夏休み、両親は宗教が原因で別れました。父がどうしても信仰は捨てられなかったのです。私は母と、祖母と一緒に引越し、すぐそこに義父がやって来ました。宗教だ何だと言っても結局は義父と結婚するための離婚だったのです。

それまで私は一人娘として、伸び伸び育っていたと思います。父は私には良き理解者で話し相手でした。正しいことは正しく、嘘をつくことはいけない、と当たり前前（あきりまへ）のことを当たり前前に言える幸せな環境でした。でもそれは全て失くなりました。住み始めて1カ月も

すると義父は本性をあらわし始めました。義父は女の噂うわさのたえない、常に自分の経営する職場に自分の女が居るといふ人でした。母は仕事である程度成功していたので、どうやら経営の為ために母のお金が目当てだったようです（後に母がどこからか聞いてきた）。

夜、階段を上がって来た義父に部屋の前でいきなりキスをされました。唇をこじあけようと舌をつかうあのいやらしさ。「お母さんに言うなよ」の一言に何をされたのかも分かつたらずボンヤリしていました。そして私が誰にも言わなかったのが分かれると毎晩同じことをしました。私が部屋に（二階でした）行くと、食事を終えた義父が入って来て抱きしめてディープキスをするのが分かつているので、食事を終えても下に居ると義父は「早く上で勉強しろ！」と言い、母は何も気づかずやはり「早く勉強しなさい」と言つて二階へ行かせます。そしてまた同じことをされるのです。だんだんエスカレートし、何故なぜか私は両親の部屋で義父が上がって来る迄までテレビを観みるようになっていました。そして、義父は布団ふとんに転がり私の胸をもみながらテレビを観、そして最後は布団に私を押しつけ、乗っかってキスをし、SEXはしませんでしたが、私は天井を見つめて、早く終われ、といつも思っていました。

怖くて恥ずかしくて誰にも言えないし、母はちっとも気づいてくれないし、私は本当に独りぼっちになった気がしました。丁度体も変わってくる時でしたし、義父は食事中もい